

2022（令和4）年さけます来遊状況（第3報：10/31現在）

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 北海道の年齢別来遊数では、4年魚（2018年級）、3年魚は前年および平年*1を上回るが、5年魚（2017年級）は前年および平年を下回る
- 北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では4年魚は前年の210%、平年同期の43%、5年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない
- 北海道日本海側（オホーツク海区および日本海区）では4年魚は1994（平成6）年以降で最も多く、5年魚は1994年以降で3番目に少ない
- 北海道のサケの平均重量は2.84kgで前年を下回り、1989（平成元）年以降で最も小さい

*1：平年とは、1994（平成6）～2021（令和3）年の平均値

・サケの年齢組成（北海道）

北海道の河川に回帰したサケの年齢査定途中経過をもとに、10月31日現在における年齢別来遊数を推定したところ、4年魚（2018年級）が全体の70%と最も多く、次に3年魚（2019年級）が21%を占めました。前年同期と比べると4年魚は209%、3年魚は257%と前年を大きく上回っていますが、5年魚（2017年級）は56%と大きく下回っています（図1）。平年同期との比較では、4年魚は112%、3年魚は443%と上回っていますが、5年魚は18%と1994（平成6）年以降で2020（令和2）年に次ぐ2番目に少ない状況です。

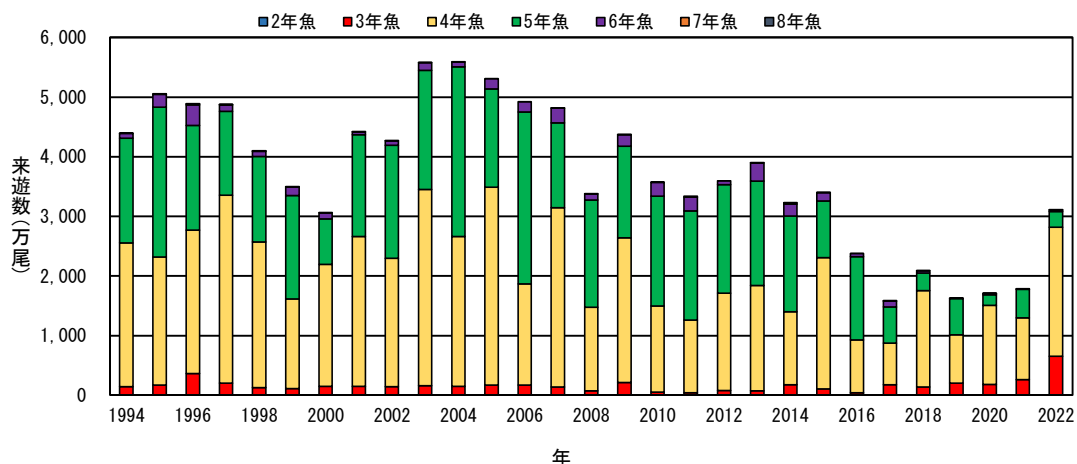


図1. 10月31日現在のサケ年齢別来遊数（北海道）。

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2018年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2017年級の平均の118%の水準となっています。また、5年魚である2017年級の来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2016年級の平均の42%の水準となっています（図2）。

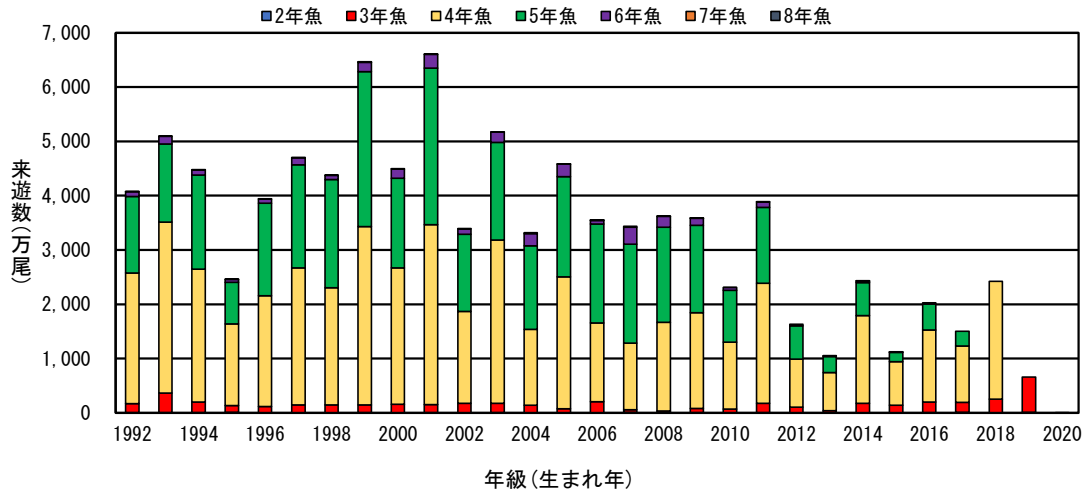


図 2. 10月31日現在のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(北海道).

地域別にみると、北海道太平洋側(根室海区～えりも以西海区)では、4年魚が全体の73%と最も多く、次に3年魚が18%を占めました。4年魚の来遊数は前年同期の210%、平年同期の43%、3年魚は前年同期の166%、平年同期の162%、5年魚は前年同期の67%、平年同期の6%となっており、5年魚は1994(平成6)年以降で最も少ない値となっています(図3)。

北海道日本海側(オホーツク海区および日本海区)では、4年魚が全体の69%と最も多く、次に3年魚が22%を占めました。4年魚の来遊数は前年同期の208%、平年同期の188%、3年魚は前年同期289%、平年同期688%となっており、4年魚、3年魚ともに1994(平成6)年以降で最も多い値となっています。5年魚は前年同期の54%、平年同期の29%となっており、1994(平成6)年以降で3番目に少ない値となっています(図4)。

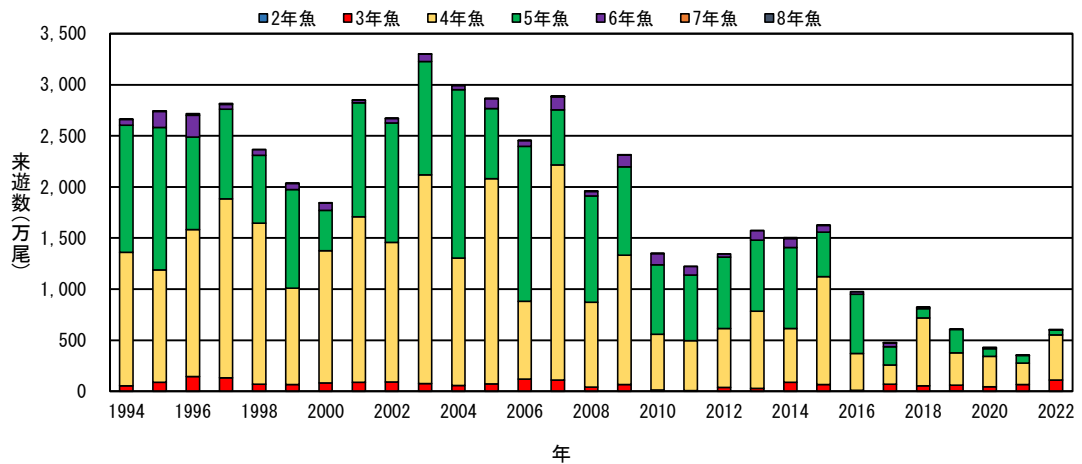


図 3. 10月31日現在のサケ年齢別来遊数(北海道太平洋).

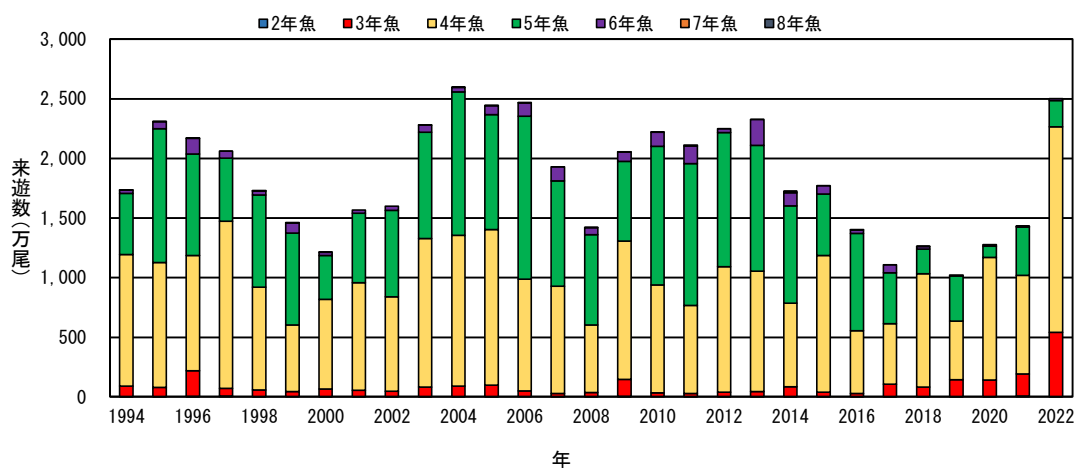


図 4. 10月31日現在のサケ年齢別来遊数 (北海道日本海).

・サケの体サイズ

北海道における10月31日現在のサケ1尾当たりの平均重量(漁獲数と漁獲重量から算出)は2.84kgであり、前年同期の平均体重3.19kgを下回り、1989(平成元)年以降で最も小さくなっています(図5)。

また、北海道の主要河川に10月31日現在までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長は64.7cmであり、前年同期の平均尾叉長66.6cmよりも小さく、1989(平成元)年以降で5番目に小さい値となっています(図6)。

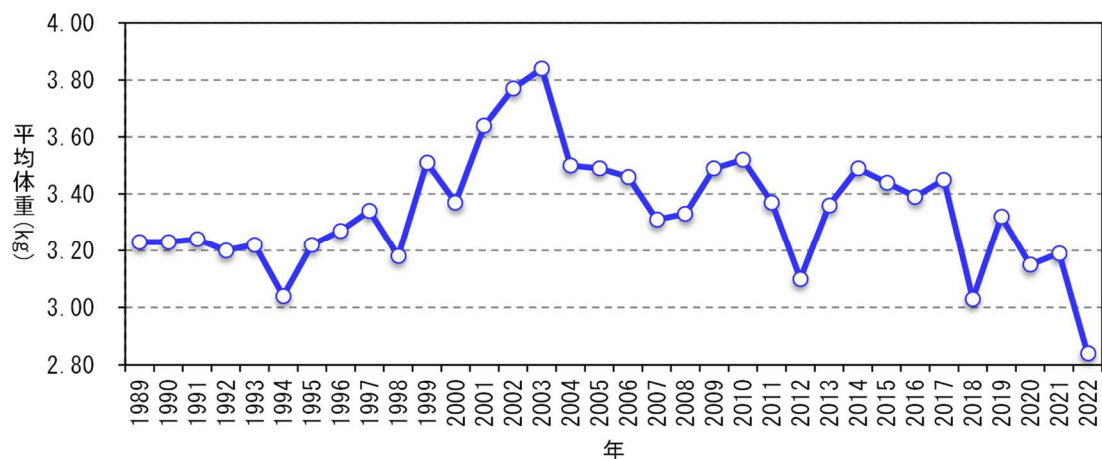


図 5. 10月31日現在の北海道サケ平均重量.

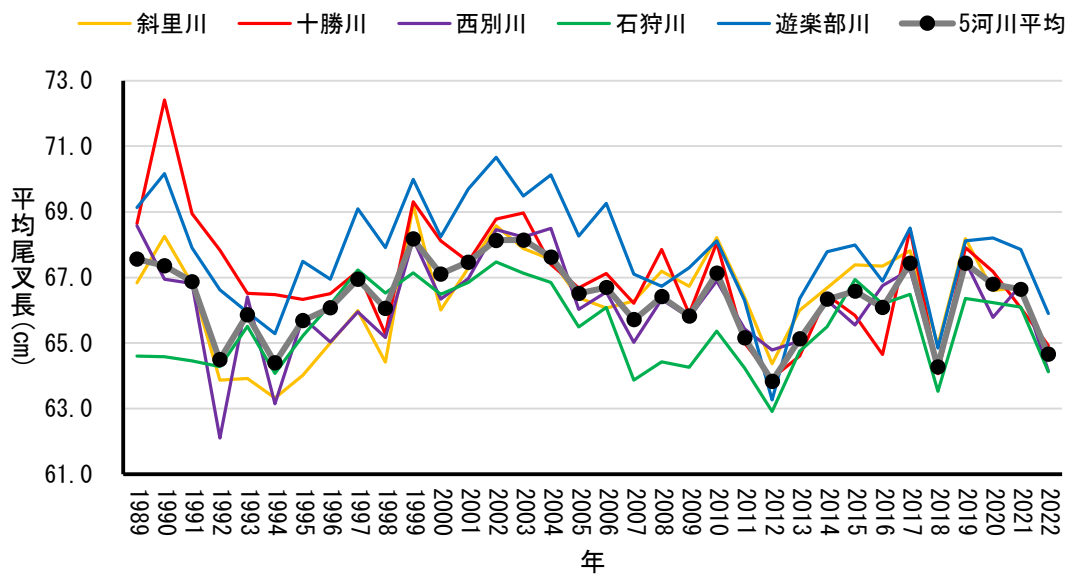


図 6. 10 月 31 日現在の北海道主要河川におけるサケ 4 年魚の平均尾叉長.